

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立鹿西高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>1 学習習慣の確立と教科指導力の向上</p> <p>・学ぶ楽しさや充実感、達成感によって笑顔が得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て、進んで学習に向かう力を育成する。</p> <p>・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。</p> <p>・GIGA校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、一人一台端末環境を生かした授業改善に取り組み、学びの質の向上を目指す。</p>	① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。	<p>【教員】思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を毎回行っていると答える教員が</p> <p>A 60%以上</p> <p>B 50%以上</p> <p>C 40%以上</p> <p>D 40%未満</p>	76.2% A	生徒が授業評価アンケートで「深く考えさせる授業である」と回答した割合が93%と新しい授業形態に慣れてきた様子が見られる。
	② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。	<p>【生徒】授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が</p> <p>A 95%以上</p> <p>B 90%以上</p> <p>C 85%以上</p> <p>D 85%未満</p>	92.9% B	引き続き生徒が意欲的に学習に取り組めるように工夫していく。
	③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への指導・助言・相談に携わる。	<p>【生徒】目標家庭学習時間を達成した生徒が</p> <p>A 55%以上</p> <p>B 40%以上</p> <p>C 30%以上</p> <p>D 30%未満</p>	25.8% D	学年別で上半期と下半期で比較すると家庭学習時間がすべての学年で増加しているが、目標時間達成生徒割合は1/4である。この結果から日々の家庭学習の大切さを具体的なデータを用いて説明をする活動を充実させていく必要があると考えている。
	④ 校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を通してICT活用指導力の向上を図る。	<p>【生徒】授業でICT機器を使い、学習効果があがっていると感じる生徒が</p> <p>A 95%以上</p> <p>B 90%以上</p> <p>C 85%以上</p> <p>D 85%未満</p>	85.0% C	ICT機器を使用した授業で学習効果が上がった事例について職員会議等を利用して研究を進めている。今後も研究を継続したい。
学校関係者評価委員会の評価		生徒の思考力・判断力・表現力を育み、実践力・行動力のある生徒の育成に期待を寄せている。		
評価結果を踏まえた今後の改善策		生徒一人ひとりの学習進捗や理解度に合わせて、学力層ごとの学習計画を策定し、模擬試験や定期考査を通じて、きめ細かい学習指導を徹底する。		

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
2	豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進	①	鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。	【生徒】学校行事を通して自主性、協調性が身についたと考えている生徒の割合は A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	89.5% B	企画を練る段階から、生徒の希望をなるべく叶える方向で審議を進め、且つ健康や安全に配慮しながら運営を行った事が高評価に繋がったと考える。（今年度前期は90.1%で前期の90%越えは初である）
	・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。 ・事実や結果を真正面から受け止め、前向き、ポジティブな思考を持ちながら前へ進むことができる生徒を育てる。					
		②	問題を抱えている生徒に対して、生徒課・保健相談課・担任・学年主任が連携するとともに全教員で解決にあたる。 悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。	【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	87.0% A	小さな問題に対し積極的に認知を行い、課や学年を越えて何度もその問題について話し合い、解決に向けて動き続けた事が昨年度よりも12%アップの結果に繋がったものとする。教職員の連携・組織力が上がった証拠である。
学校関係者評価委員会の評価			生徒自身による自主的な部活動を運営する経験や生徒会執行部での活動は、社会に求められる豊かな人間性や協調性を身に付ける機会となるため、今後も創意工夫をして生徒に活動の場を提供してもらいたい。 現行の部活動の成果を評価しつつ、アーバンスポーツとの融合により学校の魅力を一層高め、入学希望者数の増加を目指すことを検討してはどうか。 地域のニーズや時代の変化に対応した新たなスポーツ活動を取り入れることで、生徒の多様な才能を引き出し、学校全体の活性化に繋がるのではないかと。			
評価結果を踏まえた今後の改善策			体験学習やキャリア教育、部活動や生徒会活動などを通じて、生徒が社会との関わりを学んだり、主体的に活動できる活動を支援し、リーダーシップや協調性を育成する。 アーバンスポーツ等の部活動新設を検討し、生徒の興味関心を高める体制を考える。			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
3	キャリア教育の推進と進路指導体制の確立	① 「総合的な探究の時間」等の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。	【生徒】 取組によってふるさとや将来について考えられたと答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	93.2% B	昨年と同様に多くの生徒がふるさとや将来について問題意識をもって活動できていると考えられる。
	・地域と連携した総合的な探究の時間等を通して、課題を発見し解決していくための資質・能力を向上させる。 ・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。	② 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会等進路ガイダンスを充実させる。	【教員（担任+進路指導課）】 生徒の進路実現に向けた意欲が高まるような進路ガイダンスを行っている と答える教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 ※進路ガイダンスには、個人面談、奨学金説明会、大学見学会、各学年集会の進路説明会、コース選択説明会、卒業生と語る会等を含める。	93.8% B	「よくあてはまる」の回答は上半期(23.5%)に比べ50.0%と増加した。(昨年同時期37.5%)。今後も各種ガイダンスをきっかけとし、生徒が自分で進路実現に向けて考え、行動できるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		「総合的な探究の時間」にPDCAを取り入れ、様々な活動をどんどん経験し、生徒自身の適性と将来につながる興味や関心の気づきの機会を引き続き、確保してもらいたい。 Chromebookを活用したアプリ開発等を推奨する。これらの取り組みを通して、生徒の地域課題解決能力やICTスキル向上を図るとともに、生徒は地域課題に当事者意識を持ち、解決に向けて努力するためその成長に繋がるのではないか。			
評価結果を踏まえた今後の改善策		探究コンソーシアムによる講演会や大学見学を通して、生徒のキャリア形成を支援し、進路実現に向けた学習環境を整える。 総合的な探究の時間に、地域課題解決を目指し、生徒がアプリやAR/VR等の開発に挑戦できる機会を設けることができるか検討する。			

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
4	保護者や地域から信頼される学校づくりの推進 ・広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。 ・中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。	①	各課・学年が連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。	【保護者】PTA総会、PTA教育懇談会、教育ウィーク等年間を通して生徒や学校の様子を見に来校した保護者の延べ人数が A 600人以上 B 550以上 C 500以上 D 500未満	945人 A	昨年度と比較して来校者数が99人増加した。多くの保護者にとって学びが多くなる講演会等を継続して企画立案し、保護者の学校に対する関心を高めたい。
		②	ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。	【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が A 95％以上 B 90％以上 C 85％以上 D 85％未満	88.2％ C	昨年と比較してHPへの掲載記事数が約7割であった。教職員が、生徒の様々な学校生活の様子をHPに掲載するよう働きかける。
		③	教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。	【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が A 75％以上 B 65％以上 C 60％以上 D 60％未満	63.7％ C	教職員の時間外の労働時間は昨年と比較して減少しているが、業務の改善が進んでいることを実感できるように学校行事の精選や部活指導の在り方を考える。
学校関係者評価委員会の評価			地域や保護者との交流を増やしてその実状を知ることで、Uターン就職をする学生数が増加するという報告がある。地方自治体や商工会、地元企業等と連携した学習を通して、生徒が地域社会を深く理解し、将来のキャリア形成につながる取り組みを検討してもらいたい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策			地方自治体や商工会と連携し、地域課題解決のためのワークショップやフィールドワークの実施を検討する。 地元企業との連携では、インターンシップや企業見学を通して、仕事内容や地域貢献について学ぶ機会を検討する。 HPや学校だよりなどの通達を通して、これらの取り組みを保護者へ発信し、共通理解を図る。			